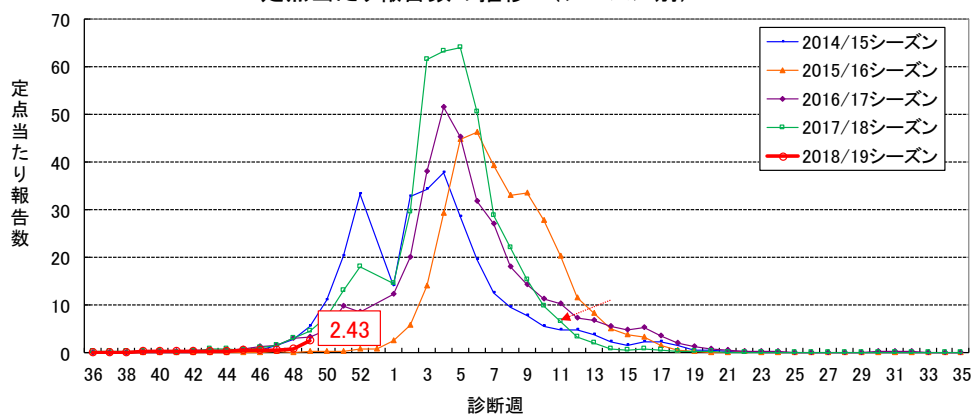


【今週の注目疾患】

【インフルエンザ】

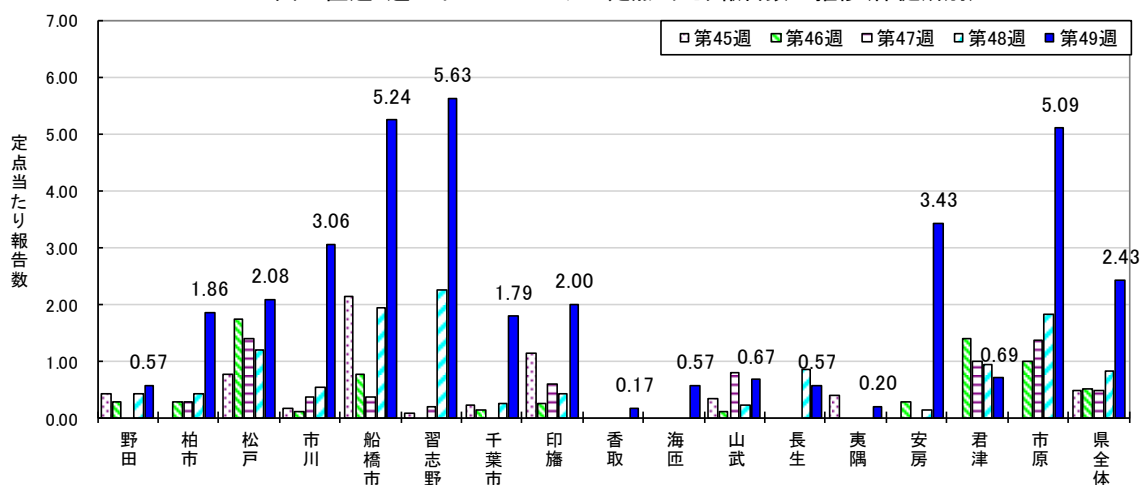
2018年第49週におけるインフルエンザの定点当たり報告数は2.43（前週0.83）となり、流行開始の目安としている1.00を超えた（図1）。

図1：県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移（シーズン別）



県内16保健所（千葉市、船橋市および柏市含む）別では、習志野保健所（定点当たり報告数5.63）、船橋市保健所（同5.24）、市原保健所（同5.09）が報告数の多い上位3保健所となっており、16保健所のうち9つの保健所管内で定点当たり1.00を超えている（図2）。

図2：直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移（保健所別）



厚生労働省による『インフルエンザの発生状況』によると、前週（第48週）の全国における発生状況は、定点当たり報告数は0.93（患者報告数4,599）であり、都道府県別では和歌山県（2.57）、香川県（2.06）、三重県（1.82）、奈良県（1.78）、青森県（1.71）、鹿児島県（1.66）、沖縄県（1.61）、富山県（1.54）、愛知県（1.40）、大阪府（1.25）、北海道（1.21）、埼玉県（1.19）、石川県（1.19）、兵庫県（1.19）、福岡県（1.10）、東京都（0.94）の順であった。なお、定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約3.4万人（95%信頼区間2.8～4.0万人）であり、2018年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約12.4万人となった。また、全国における直近（第44～48週）

のウイルス検出状況は、A型インフルエンザウイルスにおいてはA(H1)pdm09、A(H3)亜型、B型の順となっている。千葉県内では第49週に県内小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力によるインフルエンザウイルス迅速診断の報告では、473例中A型466例(98.5%)、B型7例(1.5%)であった。2018/19シーズン合計では、1,218例中A型1,184例(97.2%)、B型31例(2.5%)、A and B型1例(0.1%)、A or B型2例(0.2%)となっており、A型インフルエンザが主流となっている。

参考・引用

厚生労働省：インフルエンザの発生状況について（第48週）

<https://www.mhlw.go.jp/content/000446774.pdf>